

研究課題名	糖尿病性腎症における管外細胞増多病変と腎予後の検討 -既存試料を用いた観察研究-
研究の意義・目的	<p>糖尿病性腎症は、糖尿病の合併症の1つであるとともに、慢性腎臓病の代表的な疾患です。糖尿病性腎症の腎組織学的変化として様々な変化が古くから知られていますが、私達は今回、管外細胞増多病変という新しい病変に注目しております。管外細胞増多病変を認める糖尿病性腎症の方では、そうでない方と比較して、尿蛋白が多く・腎機能が悪く・腎予後も不良ではないかと日々の診療の中で感じております。また、糖尿病性腎症に伴う管外細胞増多病変では、半月体という出血病変と見間違えられることがあり、ステロイド治療が選択されてしまうことがあるのではないかと懸念しております。</p> <p>本研究を通して、糖尿病性腎症における管外細胞増多病変を伴う方の予後を検討することは、将来、糖尿病性腎症の方の治療の一助となる可能性が高いと考えております。また、糖尿病性腎症における管外細胞増多病変の認知度を広めることは、本来不要なステロイド治療による副作用を避けることができると期待されます。以上の意義につき、これまでに大阪市立大学医学部附属病院で腎生検を受けられ、糖尿病性腎症と診断された方にご協力を頂きたいと考えました。</p>
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～ 2025年3月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2007年5月1日～2021年11月30日の期間に大阪市立大学医学部附属病院 腎臓内科に腎生検目的で入院され、腎生検にて糖尿病性腎症と診断された方が対象です。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、血圧、既往歴、内服薬、注射薬、喫煙歴、飲酒状況</p> <p>入院時の血液検査：血算、CRP、eGFR、Cr、BUN、TP、Alb、UA、TG、TC、LDL-C、FPG、HbA1c</p> <p>入院時の尿検査（随時尿）：蛋白、Cr、Na、K、Cl、Ca、P、NAG、<math>\beta</math>2-MG</p> <p>退院後の血液検査：eGFR、Cr</p> <p>治療内容：血糖降下薬の使用の有無とその種類、降圧薬の使用の有無とその種類、免疫抑制薬使用の有無とその種類、血液透析の有無</p> <p>合併症：網膜症、神経障害 以上を診療録より調べます。</p> <p>腎組織学的変化：保存している病理組織を再検討いたします。</p>
試料・情報の他機関への提供	<p>本研究は大阪市立大学医学部附属病院腎臓内科のみで研究いたします。</p> <p>他の施設に試料・情報は提供いたしません。</p>
この研究を行っている共同研究機関	<p>ありません。</p> <p>大阪市立大学医学部附属病院腎臓内科のみで行います。</p>
試料・情報を管理する責任者	<p>所属：大阪市立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学</p> <p>職名：講師 氏名：仲谷慎也</p>
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	<p>下記に連絡することでいつでも本研究への参加を拒否できます。</p> <p>研究への参加を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。</p>
連絡先	<p>お問合せ先：大阪市立大学医学部附属病院腎臓内科</p> <p>担当者氏名：仲谷 慎也</p> <p>電話番号：06-6645-2312</p>